

3 戦債・賠償支払い猶予問題（フーヴァー・モラトリウム）

347 昭和6年6月20日

在米出淵大使より
幣原外務大臣宛（電報）米国内外の経済回復等に関するフーヴァー米
大統領と政党首脳者との会見についてワシントン 6月20日後発
本 省 6月21日前着

第一三二号

米国の経済不況ヲ緩和スルカ為ニハ欧州諸国一般ノ経済ヲモ改善セシメサルヘカラストテ之ニ関連シ米国内ノ対欧戦債取立ノ一部免除方ヲ論スルモノ財界有力者ノ間ニ相当多数アリ政府ニ於テモ右ノ議論ニ対シ相当ノ考量ヲ払ヒ居リタル様子ナルカ最近独逸財界ノ危機ニ直面シ米国内ニ於テモ何等カノ処置ヲ為ササルヘカラサルノ必要アリト認ムルニ至リタルモノノ如ク大統領ハ六月十九日公表ノ声明書ニ於テ西部地方遊説ヨリノ帰来直後両党主脳部ト会見シ米国内外ノ経済回復特ニ独逸援助ノ対策ヲ協議シタル処未タ纏リタル結論ニ達セサルモ右協議ノ結果ハ極メテ満足スヘキモノ

往電第一三二二号ニ関シ

二十日夕刻「フーバー」ハ一ノ声明ヲ発表シタルカ其ノ要旨左ノ通

一、米政府ハ個人ノ保有ニ拘ル政府ノ諸債務ヲ除キ政府間ノ負債賠償及救助費ノ支払ハ元利共一年間之ヲ延期スルコトヲ提議ス

二、若シ議會ノ承認ヲ得ルニ於テハ合衆国政府ハ諸外国政府ノ戦時中並ニ戦後ノ負債中本年七月一日ヨリ明年六月三十日ニ至ル期間内ニ期限到来スヘキ一切ノ支払ヲ猶予スヘシ

三、右ノ支払猶予ハ他ノ諸国政府間ニ於ケル債務関係ニ付主ナル債権国政府カ一年間同様ナル支払猶予ヲナスコトヲ条件トス

四、以上ハ世界経済一般ノ恢復及米国内ニ於テ其徴候ヲ現ハシ来レル景気恢復ノ力カ外国ヨリノ悪影響ヲ受ケサラシカ為ノ処置ナリ

五、今回ノ申出ニ依リ米国内ハ賠償問題ト対米戦債トノ間ニハ何等関係ナシトノ米国内從來ノ立場ヲ放棄シタルモノニ非ス

アリタリトノ趣旨ヲ明カニセリ

右協議ノ内容ニ関シ世上各種ノ説ヲ為スモノアル模様ナルモ米国内ハ欧州諸国ニ対スル経済回復ニ必要ナル相当ノ期間戦債利子ノ支払ヲ猶予スルニ至ルヘシトノ説ヲ為スモノアリ今年度英仏等ノ利子支払額ハ元本支払額ノ数倍ニ上ル關係モアリ右ハ相当有力ナル一説ナルカ如シ何レノ途本問題ノ処理ニハ立法ノ手續ヲ必要トスヘク結局會議開催ノ時機通常會議迄持越サルコトナルヘシト觀測スルモノ多シ英ニ転電シ英ヨリ在欧各大使ニ転電セシム

348 昭和6年6月21日

在米出淵大使より
幣原外務大臣宛（電報）各国間債務・賠償等の支払い猶予に関するフ
ーヴァー大統領提案についてワシントン 6月21日後発
本 省 6月22日後着

第一三三号

六、今回ノ処置ハ如何ナル意味ニ於テモ戦債ノ棒引ヲ意味スルモノニ非ス又対独賠償問題ヲ含ム欧州諸国間ノ問題ニ米国内ノ介入ヲ意味スルモノニ非ス

七、尚本措置ハ明年二月開催ノ軍縮會議トハ直接関係ナキモ経済不況カ從來ノ軍備競争ニ基ク事多キニモ顧ミ本提案ニ依リ軍備問題解決ノ為必要ナル精神的要素ヲ提供シタルモノナルコトヲ信ス

尚大統領ハ右声明書中ニ両党ノ主ナル関係上下両院議員各二十名内外及「ドウズ」大使「オーエンヤング」ノ賛同ヲ得タル旨記シ居レリ

英ニ転電シ英ヨリ在欧各大使ニ転電セシム

349 昭和6年6月25日

在米出淵大使より
幣原外務大臣宛（電報）フーヴァー提案発表の経緯と関係国の反応に
ついてワシントン 6月25日後発
本 省 6月26日後着

第一三九号

往電第一三七号ニ関シ

二十五日「カツスル」次官補ニ面会シ日本国ハ戦債ヲ有セサルモ賠償問題ニ直接ノ利害関係ヲ有シ従来関係国ト協力シ来レル関係モアルニ付「モラトリウム」問題ノ進展ニハ注意ヲ払ヒ居レルニ付是迄ノ成行ニ付報道ヲ得タシト述ヘタルニ「カ」ハ大統領ハ本問題ニ就テハ関係国ノ一タル日本国ノ協力ヲ求メラレタキ趣旨ニテ適當ノ機会ニ國務省側ヨリ貴大使ニ御話スルコトトナリ居ル処幸本日御来訪ノ機会ヲ以テ過日ノ声明ヲ発表スルニ至レル内情等ニ付腹藏ナク御話致ス可シトテ大要左ノ通話レリ

(一)大統領ハ最近ニ於ケル独逸財界ノ不況容易ナラサルモノアリテ其儘ニ差置ク時ハ恢復シ得サル重大ナル事態ノ發生ヲ見ルニ至ルヘキヲ慮リ「モラトリウム」ノ如キ方法ニ依リ救済ヲ計ル必要アルヲ痛感セラレ議會側其他財界有力者ト意見ヲ交換シ居タル際偶々英国ニ赴キ居タル「メロン」大蔵長官ヨリ頻々トシテ独逸財界ノ危機ヲ伝ヘ来レル一方大統領ニ於テ「モラトリウム」ヲ考慮シ居ルコト薄々洩ルル状態トナリタルニ付去ル十九日不取敢第一声明(往電第一三二号)ヲ発表スルト共ニ國務長官

(二)英国政府ハ大統領ノ意向ニ満腔ノ賛意ヲ表シ其旨議會ニ於テ公表シ殊ニ英本国ト植民地間ニモ「モラトリウム」ヲ行フコト迄意ヲ用ヒタルコトハ大統領及米國政府ノ深く感謝シ居ル所ナリ(往電第一三八号参照)伊國ハ主義上素ヨリ異存ナキ模様ナルカ唯仏國丈ハ引續キ無条件年金ノ支払ヲ要求セントスルモノノ如ク斯デハ大統領ノ趣旨ニ副ハサル次第ニ付キ大統領ハ本日「メロン」長官ヲ巴里ニ派遣シ仏國当路者ヲ説カシムルコトトナシタルカ仏國ニシテ万一大統領ノ提案ニ同意セサルニ於テハ仏國ハ結局事実上独逸ヨリ何物ヲモ得ラレサルコトトナルヘキニ付早晚賛同スルコトトナルヘシ尚仏國側ニ於テハ「メロン」ノ倫敦行ハ予メ「モラトリウム」問題ニ付英米間ニ話合ヲ為シ仏國ヲ抑ヘ付ケントノ魂胆ニ出テタルモノトノ僻ミアル模様ナルカ「メロン」ノ英国行ハ本問題相談ノ目的ニ出テタルモノニアラス次テ本使ノ質問ニ對シ「カ」ノ敷衍説明セル所左ノ通

(三)大統領ノ「モラトリウム」案ハ其声明ニアル通り議會ノ同意ヲ要スル次第ナルカ大統領カ上下両院有力者トノ接触ニ依リ得タル印象ニ依レハ本案カ議會ノ同意ヲ得ルコ

ニ於テ独逸ト最モ重大ナル関係ヲ有スル英、仏、伊、白ノ代表者ヲ招致シ大体大統領ノ意向ヲ伝ヘ不取敢各本國政府ノ考慮ヲ促サシムルコトトシ引續キ爾余ノ関係諸國代表者ヲ招キ夫々内話スル腹案ナリシ処翌二十日ニ至リ「メロン」長官ヨリ独逸財界ノ状態悪化シ同日引出サレタル「クレヂット」ハ一億麻克ノ多額ニ達スル状況ナリト伝ヘ来リ此上「モラトリウム」案ノ発表ヲ遷延セシムル時ハ事態益々悪化スヘシト思考シ同日午後遽カ第二声明(往電第一三三号参照)ヲ発表セシ次第ナリ実ハ國務長官トシテハ第一声明発表後本案ヲ関係各国ニ内示シ其態度ヲ見極ムル為一週間位ヲ費シ度キ所存ナリシモ大統領ニ於テ「メロン」長官ノ報道ニ刺戟セラレ且内政上ノ都合モアリ突如第二回声明ヲ発表スルニ至リタルコトハ長官自身ニ於テモ意外ニ考ヘ居ル処ナリ

(2)右様ノ次第ニテ独逸ト直接最モ関係深キ諸國ニ對シテハ単ニ大統領ノ考案ノ要旨ヲ口頭ニテ話シ各本國ノ考慮ヲ求メタルニ止マリ大統領ノ案其物ハ之ヲ第二声明トシテ公表シ米國ノ真意ヲ關係國ニ知ラシムルノ処置ニ出テタル次第ナリ

ト殆ト疑無キカ如ク殊ニ声明発表以來世界各国ニ於テ歡迎セラレ且財界ニ好調ヲ齎シタルコトハ一層議會側ニ良好ナル影響ヲ与フヘシ

四)本案成否ノ鍵ヲ握リ居レル仏國ニシテ本案ニ賛成スル場合ニハ一部ニハ必要論アルモ結局關係國ノ財政専門家ノ会合ニ依リ手続等ノ問題ニ関シ適當ナル形式ヲ整フルノ必要アルヘシ

尚最後ニ「カ」ハ仏國ノ態度モ何レ其内判明スヘキニ付重ネテ本問題ニ付御話致スヘキモ日本政府ニ於テ大統領ノ意ノアル所ヲ諒セラレ「モラトリウム」案達成上御協力ヲ願度シト付言セリ

英ニ転電シ英ヨリ仏、白、伊、独ニ転電セシム

350 昭和6年6月26日 在仏國栗山臨時代理大使より
幣原外務大臣宛(電報)

フーヴァー提案に対する仏國の対米回答につ
いて

パ リ 6月26日後発
本 省 6月27日前着

第一七五号

「モラトリアム」ニ関スル対米回答二十六日発表セラレタルカ其要旨左ノ如シ

一、「ヤング」案無条件年金ノ動カスヘカラサル所以ヲ力説シタル後独逸国家ノ窮迫ヲ救フ為ニハ独逸予算ノ軽減ノミニテハ不十分ナルヲ以テ之ニ資金ヲ供給スルノ必要アルコトヲ認メ此目的ノ為ニ仏国政府ハ議會ノ協賛ヲ条件トシテ無条件年金ノ自国取分ヲ国際決済銀行ノ処分ニ委ネンコトヲ提議ス仏国政府ハ「ヤング」案一切ノ受益国カ同様ノ措置ヲ執リ以テ世界ノ信用状態回復ニ寄与センコトヲ希望ス

二、斯ノ如クニシテ国際決済銀行ノ処分ニ委ネラレタル資金ハ直ニ独逸及中央欧羅巴特ニ「ヤング」案実施ノ停止カ財政経済上ノ混乱ヲ来スヘキ諸国ノ信用改善ニ利用セラルヘシ（利用セラレタル額ハ一年後皆済セラルヘキコト勿論トス）

三、一方仏国政府ハ「ヤング」案ノ停止ニ依リ独逸ノ利スヘキ余裕ハ之ヲ経済的目的ノ為ニノミ使用セラレ「デンプング」ノ資本トナルノ危険ヲ防止スルニ付凡ユル予防

ヲ、又独、白両大使永井次官ヲ来訪本件ニ関スル我方ノ意向ヲ尋ネタルニ付本大臣ハ大要左ノ通り答ヘ置キタリ就テハ貴任国政府当局ヨリ意見ノ開陳ヲ求メラレタル節ハ右趣旨ニテ適宜応酬アリ度シ

帝国政府ハ今回ノ米國提案ノ賢明ニシテ時宜ニ適スルヲ深ク諒トス帝國ハ米國ニ対シ戦債ヲ有セサルモ米國提案ニ依レハ戦債ノ猶予ハ日本ヲ含ム旧連合國ノ対独賠償債権取立ノ延期ヲ前提トスルコト明ナル処本件ニ関シテハ米國其他ノ関係國ヨリ未タ公式ノ通告ナク又本件解決ノ為執ルヘキ手續ニ関シテモ何等ノ提議ニ接セス但帝國政府ハ近ク関係國ヨリ正式ノ通告ヲ受クヘキヲ期待シ右接到ノ上ハ好意ヲ以テ攻究シ度キ所存ナリ

二、尚独逸ヨリ受領スヘキ賠償年金ハ既ニ本年度予算ニ計上セラレ殊ニ其ノ無条件ノ部分ハ本年度内ニ收受スヘキヲ予期シ居リタル次第ナル処海牙賠償協定ハ未タ批准ヲ了セサルモ追テ其批准済ノ上ニ於テ同協定ニ依ル帝國ノ權利ヲ抛棄スルニ付テハ更ニ別段ノ国際協定並ニ之カ批准ヲ要スルヤニ思考セラル貴官御参考迄申添ユ

本電本大臣ノ訓令トシテ在仏大使ニ転電シ同大使ヲシテ在

手段ヲ講スルノ必要アルヲ認ム

四、尚一年ノ期間満了前独逸ノ支払再開ノ方法ニ付審議ノ必要アルヲ認ム

五、斯クノ如クセハ仏國提議及米國提議ノ実施ニ付執ルヘキ必要ナル措置（之ニ付テハ後日ノ意見交換ヲ必要トス）ハ完全ニ「フーバー」大統領ノ意向ニ合致スヘシ

尚本件ニ関シテハ米國財務長官ノ来仏ヲ機トシ（二十五日来巴）更ニ仏米間ニ意思ノ交換アリ又独首相外相ノ来仏ニ付独仏間ニ談合行ハレ居ル模様ナリ回答「テキスト」郵送セリ

米、英、伊、独、白ニ郵送セリ

351 昭和6年6月27日 幣原外務大臣より
在米國出淵大使宛（電報）

フーヴァー提案に対する我が方意向につき訓令

本 省 6月27日後発

第一〇五号

往電第一〇四号ニ関シ

一、米國政府ノ声明書発表以来在本邦仏、伊両大使本大臣

英、独、伊、白各大使ニ転電セシメラレ度シ

352 昭和6年7月2日 在米國出淵大使より
幣原外務大臣宛（電報）

フーヴァー提案への賛同を求める米國の対仏

覚書について

ワシントン 7月2日後発
本 省 7月3日前着

第一四三号

「フーヴァー」提案ニ関シ七月一日米國政府ハ仏國政府ニ対シ長文ノ覚書ヲ送り兩國政府間ニ意見ノ一致セル点及一致セサル点ヲ明示シ本提案ノ不成立ニ終リタル場合仏國ノ蒙ルコトアルヘキ損害ヲ明示シテ仏國側ノ賛同ヲ慫慂シ居レリ

該覚書ニ依レハ兩國政府ノ意見一致セル点ハ一年間独逸ニ対シテ支払ノ猶予ヲ与フルコト及無条件年金ハ依然其支払ヲ継続セシムルノ主義ヲ破ラサルコトノ二点ナルカ意見ノ纏マラサル点ハ（一）仏國ハ払込マレタル無条件年金ヲ決済銀行ヲシテ改メテ独逸実業家ニ貸付ケヲナシシムルノ形式ヲ

採ラントスルモ右ハ独逸政府ヲ直接救済セントスル米国側ノ主義ニ一致セス(二)仏国ハ国際決済銀行ニ払込マルル無条件年金ノ内二千五百万弗タケ中欧諸国ニ貸付ノ為利用センコトヲ申出テ居ルモ右金額ヲ独逸以外ニ流出セシムルコトハ政府間ノ一切ノ支払ヲ停止セントスル米国提案ニ一致セス中欧諸国救済ノ為ナラハ他ニ適當ノ方法アルヘシ(三)停止年金ノ支払期限ニ関シ米国ハ二十五年ヲ主張スルモ仏国ハ斯カル長期ノ期限ヲ不可トスサレト此点ハ妥協困難ナラサルヘシ(四)独逸カ条件付年金ノ支払ヲ停止シタル場合仏国ハ約一億二千万弗ノ保証資金ヲ決済銀行ニ支払フ義務アリトテ此点ニ付仏国側ニ於テ頗ル憂慮シ居ルモノノ如キモ若シ関係国全部カ米国提案ニ同意セハ斯カルコトノ杞憂ニ終ルヘキハ明カナル筈ナリ又仏国側ハ名義上独逸ニ貸付ノ形式ト為スヘキ猶予年金ヲ将来ノ保証資金タラシメント為ス意向ナルカ如キモ右ハ該貸付ノ趣旨ニ反シ独逸ヲシテ實際ノ支払ヲ為サシメントスルモノニシテ米国提案ノ精神ニ反シ尙「フーヴァー」提案不成立ノ場合ニハ独逸ハ「ヤング」協定ニ基キ条件付年金ノ支払停止ヲ行フコト明カナルヘキ処斯クスルトキハ仏国ハ一方ニ於テ無条件年金一億五百万

- (2) 尤モ独逸ハ無条件年金ヲ支払フ但シ仏国政府ハ同政府ノ関スル限り右独逸ノ支払金ハ国際決済銀行ニ依リ独逸鉄道担保付社債ニ投資セラルルコトヲ受諾ス
 - (3) 支払停止アリタル一切ノ額ハ米国政府ノ提議シタル条件ニ依リ利息ヲ付シ且一九三三年七月一日ヨリ十年年賦ヲ以テ償還セラルヘシ
 - (4) 右ト同様ノ条件ハ独逸鉄道ノ発行スル社債ニモ適用セラルヘシ
- 二、仏国政府ハ直接米国政府ニ関セサルモノト認メラルル三点ニ付次ノ宣言ヲ為ス
- (イ) 支払停止ニ依リ特ニ影響ヲ蒙ルヘキ欧州諸国ノ利益ノ為ニ主要中央銀行ハ国際決済銀行ノ仲介ニ依リ協同措置ヲ講ス
 - (ロ)⁽²⁾ 「ヤング」案ニ依ル「モラトリアム」ノ場合ニ於ケル保証資金ニ付テハ仏国ハ独逸カ現実ニ外貨ヲ以テ為シタル支払ニ応シ国際決済銀行カ必要トスル額ニ等シキ額ヲ月割ニテ払込ムヲ以テ足ル趣旨ノ協定ヲ仏国ト国際決済銀行トノ間ニ遂クルヲ必要トス
 - (ハ) 実物引渡ノ問題並ニ米国案及本協定ノ適用ニ依リ必要

弗ヲ受取ルモ(イ)保証資金トシテ一億六百万弗(ロ)英国及米国ニ対シ一億一千万弗ノ支払ヲ為スコトヲ要スヘキニ付無条件年金ニ依ル仏国受領額ハ右支払総額ノ半額以下トナルヘキ訳ナリ

英ニ転電シ独、仏、伊ニ郵送セシム

353 昭和6年7月7日

在仏国芳澤大使より
幣原外務大臣宛(電報)

フーヴァー提案に関する米仏基礎協定について

パ リ 7月7日後発
本 省 7月8日前着

第一八七号

往電第一八五号ニ関シ

六日夜曩ニ仏国側ノ提議シタル左記要旨ノ基礎協定(全文郵送ス)ニ米国側同意シ仮調印ヲ了シタル趣公表セラル

一、仏国政府ハ「フーヴァー」提議ノ根本原則及左ノ諸点ニ付米国政府ト意見ノ合致セル事ヲ確認ス

(1) 政府間ノ債務支払ハ一九三一年七月一日ヨリ三二年六月三十日迄停止セラル

トナルヘキ技術的調整ハ関係国政府ノ任命スヘキ専門委員会ニ依リ考究セラルヘク右委員会ハ實際上ノ必要ト「フーヴァー」案ノ精神トヲ調和スルニ努ムヘシ

三、仏国ハ独逸政府ニ対シ同国予算ノ負担軽減額カ経済的目的ノ為ニノミ使用セラルルコトニ付欠クヘカラサル保障ヲ求ムル權利ヲ留保ス

米ニ転電シ英、伊、独、白ニ郵送セリ

354 昭和6年7月8日

在独国小幡(西吉)大使より
幣原外務大臣宛(電報)

米仏基礎協定成立に対する独国の反応について

ベルリン 7月8日後発
本 省 7月9日前着

第六六号

往電第六四号ニ関シ

米仏交渉成立ノ報ハ当国国民ノ不安ヲ一掃シ共產党系新聞ヲ除ク外一般ニ独逸ノ危機カ少クトモ暫時緩和セラレタルヲ祝福シ此ノ成功ヲ齎ラセル米国大統領ノ努力ニ対シ感謝シ居ル処他方仏国ニ対シテハ米案成立ノ遅延カ当国ニ対シ

多大ノ損害ヲ与ヘタルコト及同国新聞中独逸カ猶予金ヲ単ニ經濟的目的ニノミ使用スヘシトノ所報以外独逸ノ海軍制限及独逸関稅同盟案廢棄ヲモ要求スヘシト伝ヘラレタルニ對シ熾シニ非難ヲ加ヘ居リタル処「ベルリ―ネル・ターゲブラット」紙ノ如キハ一般ノ反仏思想擡頭ニ付警告シ慎重ナル言動ヲ保持スル必要アルヲ述ヘ居レリ又來週倫敦ニ開カルヘキ專門家會議ニ對シ米國力進ンテ之ニ参加スヘシトノ報ハ米國ノ對歐關係上喜ハシキ現象トシテ好感ヲ以テ之ヲ迎ヘ居レリ

尚七月七日当國大統領ハ「フーヴァー」宛電報ニ於テ独逸國民ノ感謝ヲ表明セルカ政府モ亦同日声明書ヲ發表シ先ツ「フーヴァー」案ノ成立ハ各方面ニ對シ世界經濟復興ノ希望ヲ惹起セルヲ説キ独逸ハ其実行ニ依リ最モ多クノ利益ヲ受クヘシト雖之カ為ニ直ニ其經濟的及財政的困難ヨリ全然脱却スルヲ得ス新案ニヨリ受クヘキ金額ハ全部財政鞏固ノ為使用セラルヘク独逸經濟界ハ之ニ依リテ生スヘキ金融界及資本市場緩和ニ依リテ利益ヲ受クルニ止マル從テ其如何ナル方面タルヲ問ハス他ノ支出ヲ増加スル余裕ナシト述ヘ最後ニ「フーヴァー」案ノ目的達成ノ為ニハ各國民間ノ協

往電第二一二号末段ニ関シ

八日齋藤ヲシテ中欧局長「サーゼント」ニ確メシメタル処左ノ通内話セリ

一、本問題ニ関スル目下ノ狀況ハ英國ハ先週來声明ノ趣旨ヲ追ヒ倫敦ニ會議ヲ開クコトトシタキ希望ニテ差当リ米仏兩國政府ニ相談中ナルカ今明日中ニハ正式ニ承諾ノ回答ヲ得ル見込ニテ其上ハ早速關係諸國ニ對シ参加ヲ求ムル筈ナリ日本ハ勿論大國ノ一トシテ出席ヲ請ハサルヲ得ス問題ハ小國中仏ニ關係アレトモ独逸ト縁薄キモノノ参加ヲ如何ニスヘキカニアリテ目下折角考量中ナリ

二、期日ハ一応十三日ト提唱シタルモ間ニ合ハサルヘキカト考フ

三、差当リ專門家ノ會議ヲ開ク予定ナルヲ以テ倫敦ニ適當ノ日本專門家アラハ出席ノ準備御取計置カレタシト尚專門家會議ノミニテハ事ヲ纏メ兼ヌル場合ヲ予見セラルルヲ以テ同時ニ若ハ模様ヲ見タル後政治家ノ会合ヲ倫敦ニ開催スルコトナルヘシト考フ

尚右ノ次第ニ付專門家會議ハ急速開催ノコトト相成ルヤモ知レサルヲ以テ我代表者ノ人選及我態度ニ付至急御考慮相

力ノ極メテ必要ナルヲ高調シ居レリ

巴里交渉成立ノ結果当國株界及為替市場ハ落着クヘキ形勢ニアルモ外資引揚ケ尚熄マサル有様ナルニ鑑ミ一般ニ現下ノ急務ハ外國側ノ對独信用恢復ニアリト認メラレ居ル処七月七日当國經濟界各方面ノ代表者約一千ハ中央銀行總裁ニ書翰ヲ送り Gold Discount Bank ノ活動ヲ容易ナラシムル為保証「シンヂケート」ヲ組織シ五億馬克迄損失保証ヲ引受クル旨ヲ通告シ此提案ノ趣旨達成ノ為中央銀行力速ニ適當手段ヲ講センコトヲ要求セルカ右ハ外資利用上重要ナル効果ヲ齎ラスモノト認メラレ居レリ

英、米、仏、伊、白、露ニ郵送セリ

355 昭和6年7月8日

在英國松平大使より
幣原外務大臣宛(電報)

フーヴァー提案に関する關係國會議開催につき英國外務省担当官の内話について

ロンドン 7月8日後発

本 省 7月9日前着

第二一二号

成様致度シ

仏、独、伊、白、米へ転電セリ

356 昭和6年7月11日

幣原外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)

英國よりのフーヴァー提案に関する關係國會議開催提議について

付記

昭和六年七月一日付在本邦テイレー英國大使より幣原外務大臣宛第一三〇号

右會議開催提議に関する在本邦英國大使書簡

本 省 7月11日後発

第一四五号

在本邦英國大使ヨリ十一日付書翰ヲ以テ英國政府ハ米國大統領ノ提案實施ニ必要ナル措置ヲ審議勸告スル為十七日午前十一時ヨリ倫敦大藏省ニ於テ財政專門家會議ヲ開催シ度キ趣ニテ帝國政府ヲ右會議ニ招請スルト共ニ代表者氏名ヲ承知シ度旨並ニ各國大臣會議ノ必要アルヘキモ右期日ハ未タ協定シ居ラサル旨ヲ英國外相ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ通報

シ越セリ

仏、独、白、伊及米へ転電アリタシ

(付記)

British Embassy,

Tokyo

No130

11th July, 1931

Your Excellency,

With reference to my Note No.129 of the 10th instant, relative to the proposal put forward by President Hoover on June 20th, 1931, for the suspension of inter-governmental payments (including reparation payments falling due on July 1st, 1931, to June 30th, 1932), I have the honour by direction of His Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs to inform you that His Majesty's Government are desirous of holding a meeting of financial experts at His Majesty's Treasury, London, on Friday the 17th instant at 11 a.m., to consider and recommend the measures necessary to give effect to President Hoover's proposal.

2. In communicating this information to Your

Excellency I am further instructed by Mr. Henderson to

invite the Japanese Government to be represented at this meeting, and, if the Imperial Government see fit to accept this invitation, Mr.Henderson would be most grateful to learn as soon as possible the names of the Japanese representatives appointed.

3. A meeting of Ministers may be necessary later but no definite date need yet be agreed upon for this.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

John Tilly (Signed)

His Excellency,

Baron Kijuro Shidehara,

H.I.J.M.Minister for Foreign Affairs.

昭和6年7月14日

幣原外務大臣より
在英松平大使宛(電報)

フーヴァー提案に関する関係国会議に我が方
参加じつ

付記

昭和六年七月一四日付幣原外務大臣より在本

邦ティレー英国大使宛条三普通第一三四号

右会議参加に関する在本邦英国大使への通報

本省 7月14日前発

第一四七号

往電第一四五号ニ関シ

十四日付在本邦英国大使ニ対シ帝国政府へ欣然本件会議ニ
参加スル旨及代表者トシテ栗山、湯本及木内ヲ出席セシム
ヘキ旨回答セリ

尚湯本及木内ニハ貴官ヨリ本件会議出席方伝達アリ度シ
仏、伊、独、米ニ転電アリ度シ

(付記)

条三普通第一三四号

以書翰啓上致候陳者本月十一日付貴翰ヲ以テ貴国政府ニ於
テ米国大統領ノ政府間支払停止方ニ関スル提議実行ニ必要
ナル措置ヲ審議勧告スル為来ル七月十七日より倫敦大蔵省
ニ於テ財政専門家ノ会合ヲ開催セラレ度キ趣御通報相成ル
ト共ニ帝国政府ニ対シ右会合ニ代表者派遣方御要請相成敬

承致候

帝国政府ハ貴国政府カ本件専門家会合開催ノ勞ヲ執ラレタ
ルコトヲ深く多トシ欣然右会合ニ参加スル意向ニ有之候間
右ノ次第貴国政府ニ御伝達相煩度候

尚本件専門家会合ニ出席セシムヘキ帝国政府代表者ノ氏名
ハ左記ノ通りニ有之候間右様御諒承相成度候

在仏国帝国大使館参事官 栗山 茂

大蔵事務官 湯本 武雄

大蔵事務官 木内 四郎

右回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和6年7月16日

幣原外務大臣より
在英松平大使宛(電報)

フーヴァー提案に関する関係国会議への我が
方対処方につき訓令

本省 7月16日後発

第一五〇号(至急)

栗山参事官へ

(一) 帝国政府ハ米国大統領提案ニ対シ主義上賛成ナリ
 (二) 右提案実行細目協定ニ当リテハ該案ノ精神ニ反セサル限リ「ヘーグ」賠償諸協定ノ実体ニ触レサル様致度
 (三) 右提案実施ノ為「ヘーグ」諸協定ノ規定ヲ多少ナリトモ變更スル方法ヲ採用スル場合ニハ仮ニ右カ一時的措置タリトスルモ帝国ニ於テハ憲法上ノ手續ヲ履ミタル後ニ非レハ実施シ得サル次第ナルニ付協定等ニ付テハ批准ヲ要スル形式ヲ採ルコトト致度若シ他諸国ニ於テ本件急速実施ノ為署名ノミヲ以テ足ルトスルニ一致スル場合ニハ帝国ニ関スル限り憲法上ノ手續ヲ履ミタル後効力ヲ発スルモノナル旨(尤モ此場合ト雖効力ヲ協定成立ノ時ニ遡ラシムルコトヲ約束スルモ差支ナシ)ノ留保ヲ付シテ署名スルコトニ取計ヒ度キニ付右御含置アリタシ

(四) 仏国案ノ如ク無条件年金ヲ独逸ニ貸付クル案ハ理論上ハ可ナルモ本邦トシテ実行手續上面倒ナリ即チ貸付ヲ為スニハ議會ノ協賛ヲ要シ協賛ニハ事実上諸種ノ困難ヲ伴フヲ以テ本邦トシテハ寧ロ米国原案ニ則リ形式的ニモ無条件年金支払猶予ヲ希望ス依テ本邦トシテハ當該国ノ事情ニ依リ仏米両案ノ何レニモ依リ得ルコトヲ提案致度シ但

(六) 支払猶予ニ依リ影響サルル国ニ対スル援助ニ付テハ本邦側トシテハ要求セス又他国援助ニハ本邦参加ノ意向ナシ
 (九) 独逸以外ノ賠償及解放費ニ関シテハ大勢ニ順応セラレ差支ナシ

(十) 「ドーズ」年金最後ノ五ヶ月残余金ヨリ我方カ仏白ニ為スヘキ支払ニ付テハ支払猶予ノ適用有無ヲ會議ニ諮リ改メテ請訓アリタシ

(七) 七月十五日期限到来ノ賠償年金支払猶予方ニ関シテハ財務官ヨリ湯本ヘ電報済

(三) 以上ノ方針ハ八月十七日閣議決定ノ筈ニ付内容變更ノ際ハ電報スヘシ

仏、白、伊、独及米ニ暗送アリ度シ

359 昭和6年7月17日 幣原外務大臣より 在英國松平大使宛(電報)

我が方対処方に関する訓令の閣議における修正点について

本省 7月17日 発

第一五一号(至急)
 栗山参事官へ

シ他ノ国力強テ仏国案ノ採用ヲ希望シ本邦ノミ前記主張ヲ為ス為協定ノ成立ヲ妨クルカ如キ事態ナルニ於テハ本邦止ムヲ得ス之ニ同意スルノ外ナカルヘキモ此場合ニ於テモ次期議會ノ協賛ヲ得ル迄暫定的ニ支払猶予ノ形式ヲ執ルコトノ除外例ヲ求ムルノ要アリ無条件年金延期ノ場合ノ支払金並ニ以上ノ希望達セサル場合ニ於ケル貸付金ノ償還金ト新案今後ノ年金トノ順位及貸付先並償還期限等ノ問題ニ付テハ大勢ニ順応セラレ度シ

(五) 条件付年金ノ猶予ノ分ニ付テハ今後ノ条件付年金トノ順位並支払期限問題ハ大勢ニ順応シ又償還ヲ容易ナラシムル為実物引渡ヲ拡張スヘシトノ提案アリタル場合賛成セラレ差支ナシ

(六) 実物引渡ニ付テハ猶予期間中ノ実物引渡継続問題ハ本邦トシテハ利害關係大ナラサルヲ以テ大勢ニ順応セラレ度モ仏国等ニシテ継続ヲ主張スルニ於テハ公平ナル取扱ヲ要求スルコトトシ度シ

(七) 保障資金ノ問題ニ関シテハ仏国ト國際決済銀行トノ協定通りニテ差支ナキモ本件ニ関連シ無条件年金割当額ノ改訂ヲ意味スルカ如キ提案ニハ絶対ニ反対セラレ度シ

往電第一五〇号ニ関シ

右ハ閣議ノ承認ヲ經タリ但シ左ノ通り御承知アリタシ

(A) (二) ハ(三)ニ於テ申進メタル次第モアルニ付削除ス

(B) (四) 末段ニ関シテハ無条件年金ノ制度ヲ尊重保持セントスル仏国案ノ主義ニハ異議ナキモ国内手續ノ關係上已ムヲ得ス除外例ヲ求ムル次第ニシテ此ノ点ニ関シ「ヘーグ」協定ノ規定ヲ變更スルコトハ可成避ケ度モ適當ノ「フォーミュラ」ナキニ於テハ協定變更モ止ムヲ得サルモノト認ムルノ趣旨ナリ右為念

往電第一五〇号同様暗送アリタシ

360 昭和6年7月17日 在英國松平大使より 幣原外務大臣宛(電報)

フォーヴァー提案に関する関係国財政専門家會議の開催について

ロンドン 7月17日後発
 本省 7月18日前着

第二三〇号

往電第二二九号専門家會議十七日午前会合「リースロツス」(議長)ハ同電ノ趣旨ヲ述ヘタル後本會議ハ「フォーバー」案

実行細目協議ノ為招集セラレシモノナルモ大臣會議開催セラルルニ鑑ミ直ニ実体問題ノ討議ニ入ラス不取敢実物引渡

ノ実状審査ノ為分科会ヲ設立スル事並ニ委員会ノ会合ハ月曜日迄延期スル事ヲ提議シ採用サル(分科会ニ木内出席)尚東方賠償関係ハ独逸賠償関係ノ審議ノ後トスル事ニ決定セリ

米、仏、独、伊、白へ転電シ、往電第二二七号及往電第二二九号ト共ニ奥、「チエ」ニ暗送セリ

編注 本件大臣會議は、当初専門家會議で合意に至らない場合に開催されることとなっていたが、ドイツ財政の急激な悪化に鑑み、本件會議を繰り上げ開催し、ドイツ財政の救済策を審議した。

361 昭和6年7月23日 在英國松平大使より
幣原外務大臣宛(電報)

独国財政救済のための関係国蔵相會議討議結果について

別電 昭和六年七月二三日付在英國松平大使より幣原外務大臣宛第二五五号
独国財政救済に関する関係国蔵相會議宣言

員会ハ公平ナル立場ニ於テ事態ヲ考究シ対策ヲ立案セシメントスルヲ目的トスルモノニシテ独逸首相ノ提議セラルル委員ハ直ニ伯林ニ赴キ「ライヒスバンク」ニ助言ヲ与フルヲ目的トスルモノナルカ若シ斯ル委員會設置方ニ付本會議ノ「モーラルサポート」ヲ必要トセラルルニ於テハ余ノ関スル限り之ヲ与フルニ吝ナラストノ意見ヲ述ヘ「スノウデン」ヨリ折衷案トシテ中央銀行總裁ニ依リ任命セラルル代表者ノ委員會ヲ組織スルコトニ改ムルノ案ヲ提議シ結局其通り決定セリ

次イテ「ライヒスバンク」ノ発券準備率引下ケ問題ニ関シ独逸宰相ハ本會議ニ参加セル各国政府ハ独逸銀行法ノ改正ニ同意シ且國際決済銀行ハ本件ニ付直ニ独逸政府ト協定ニ達セン事ヲ希望スル旨ノ提案ヲナシタル処「フライダン」ハ本件ハ海牙協定付属書第五(A)ニ依ル手續ヲ執ルヲ至当トス信賴回復ヲ計ラントスル此際通貨ノ膨脹ヲ来スカ如キ提案ヲ容ルルハ却テ信賴ヲ害スルニ至ルヘシトテ反対シタルヲ以テ独逸宰相ハ独逸政府ハ全力ヲ尽シテ通貨及經濟的安定ヲ維持セントス但シ外国ヨリノ救助ヲ期待スルモノナリトノ宣言ヲナセルモ「スノーデン」ハ本問題ハ海牙条約ニ

ロンドン 7月23日後發
本省 7月24日後着

第二五七号(極秘)

最終大臣會議二十三日午前開催出席者前回ニ同シ「マ」總理大臣ハ往電第二五三号大蔵大臣會議ノ結果作成セラレタル「レコメンデーション」ヲ付議シ討議ノ結果幾分ノ修正ヲ加ヘタル後別電第二五五号ノ宣言採択セラレタリ

右討議中独逸首相ハ本會議ノ決定ニ対シテハ深く謝意ヲ表スルモ宣言案ノ第二項タルヘカリシ中央銀行ノ手形再割引及金割引銀行ニ対スル産業ノ保障引当ニ「クレヂット」ヲ設定スルノ案「レコメンデーション」トシテ採用セラレサリシコトハ独逸側ノ最も遺憾トスル処ナリ本會議ノ決定シタル処ハ結局一時的措置ニシテ此儘ニテハ更ニ近キ将来大臣會議ヲ開催スルノ必要生スヘク時局尚困難ナルコトハ余ノ本會議ニ明言シ置カサルヘカラサル処ナリト述ヘ次テ別電第二五五号(ニ)ニ関シ「ブ」宰相ハ國際決済銀行カ独逸ニ於テ不評判ナルニ鑑ミ同行カ委員會ヲ任命スル案ニ反対ノ意ヲ表シ寧ロ「スチムソン」ノ原案ニカ又ハ三名ノ専門家伯林派遣ノ案ニ依ランコトヲ提議シ「ス」ハ独逸首相ノ考ト自分ノ考トノ間ニ食違アルモノノ如シ自分ノ主唱スル委

基キ独逸カ自ラ國際決済銀行ト相談スヘキ事項ニシテ本會議カ介入スル事ハ却テ危険ナリト主張シ結局独逸案ハ採用セラルルニ至ラスシテ止ミタリ尚「マ」ハ米国大統領提案實施ノ方法ニ関シ招集セラレタル専門家會議ハ引續キ攻究ヲ進ムヘキ旨ヲ會議ニ諮リ一同之ニ同意セリ之ヨリ「ラバール」「スチムソン」「グランジ」「ランキン」及本使ハ交々立チテ「マ」首相ノ公平ナル議長振及英國政府ノ好意ニ謝意ヲ表シ會議ノ成功ヲ祝シ之ニ対シ「マ」ノ挨拶ニテ閉会セリ

(尚本件會議事務ノ性質ニ鑑ミ田中日本銀行監督役ヲモ「アドバイサー」ニ加ヘ参列セシメタリ為念)

仏、独、伊、白、米ニ転電セリ

(別電)

ロンドン 7月23日後發
本省 7月24日後着

第二五五号

London Conference 1931 Declaration.
Recent excessive withdrawals of capital from

Germany have created an acute financial crisis. These withdrawals have been caused by lack of confidence which is not justified by economic and budgetary situation of the country. In order to insure maintenance of financial stability of Germany which is essential in interests of whole world, governments represented at Conference are ready to recommend for consideration of financial institutions in their respective countries following proposals for relieving immediate situation:

(1) That Central Bank Credit of dollars 100 million, recently granted to Reichsbank under auspices of Bank for International Settlements be renewed at maturity for period of three months.

(2) That concentered measures should be taken by financial institutions in different countries with view to maintaining volume of credits they have already extended to Germany.

Conference recommend that Bank for International Settlements should be invited to set up, without delay,

Committee of Representatives nominated by Governors of Central Banks interested to inquire into immediate further credit needs of Germany and to study possibilities of converting a portion of short-term credits into long-term credits. Conference noted with interest communication from Dr. Brüning relative to joint guarantee recently placed by German industry at disposal of Gold Discount Bank.

Conference are of opinion that guarantee of this description should make it possible to provide a sound basis for resumption of normal operations of international credit. Conference consider that if these measures are carried through they will form a basis for more permanent action to follow.

~~~~~

362 昭和6年7月24日 在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

#### 第二回財政専門家会議の審議状況について

ロンドン、7月24日後発

本省 7月25日前着

#### 第二五八号

栗山ヨリ

二十四日第二回専門委員会開催英國委員ヨリ「フーバー」案ノ主義ハ各国何レモ之ヲ承認シ居ル次第ニテ専門委員会ニテハ之カ実行ノ方法ヲ審議スルコト及各国政府間ノ負債支払ニ付何等ノ差別的待遇ヲセサルコト必要ナルヘキ旨ヲ述ヘ右ノ前提ノ下ニ審議ヲ開始スルコトナレリ

英國側ハ「フーバー」案ヲ其儘採択スルコトノ簡單ニシテ望マシキ旨ヲ述ヘタルモ「フーバー」案ヲ其儘採択スルカ或ハ米仏協定ニ依ルカノ主義上ノ問題ハ之ヲ後ニ譲リ仮リニ米仏協定案ニ基キ審議ヲ開始スルコトナレリ

米仏協定第一点ノ政府間ノ債務中東方賠償ヲ含ムモノナルヤニ付見解ヲ求メタル処米國委員ハ沿革上ハ「フーバー」案ハ概括ノ字句ヲ用ヒ居ルヲ以テ総テノ負債ヲ含ムモノト思ハルルモ此点ニ付本委員会ノ意見ヲ纏メ各国政府ニ「レコンメンド」セラルルコトナルニ於テ米國政府モ之ヲ考慮スヘシト述ヘタリ但シ委員会ニテハ先ツ以テ独逸賠償關係ヲ審議シ来週ニ入り關係者ヲ招致シテ東方賠償ノ問

題ヲモ審議スルコトナリタリ

右債務ハ如何ナル債務ヲ含ムモノナリヤ例ヘハ日本カ仏白ニ支払フ事トナリ居ル「ドーズ」案最後ノ五箇月譲与金ヲモ含ムヤ否ヤノ如キ点ヲモ明カニスル必要アルヘシト本官ヨリ述ヘタル処仏委員ハ仏國ニ関スル限りハ右支払ノ延期ニ異存ナキ旨ヲ述ヘ結局支払猶予債務ノ表ヲ作製スルコトニナリタリ米仏妥協案ノ第二点鉄道債券ニハ独逸政府ノ保障ヲ必要トスルモノナルヤ否ヤ又其債務ヲ外貨払トスルモノナルヤ否ヤノ点ヲ明カニスル必要アリ又独逸鉄道会社ハ独逸政府ヨリ独立ノ關係モアリ一方該会社ノ代表者ノ意見ヲ聴取スルト共ニ独逸間ニ意見ヲ交換スルコトナレリ

右第二点ニ関連シ英國委員ハ「ヤング」案ノ下ニ於テハ無条件年金ト条件付年金ノ間ニハ外貨払猶予ノ問題以外ニハ何等ノ差別ナク而シテ政府間ノ支払ニモ例ヘハ海牙条約ニ基キ仏白ノ英國ニ支払フ年金若ハ其他ノ年金ニテモ無条件年金ト同様ノ性質ヲ有スルモノアリテ独逸賠償支払ノ無条件年金ノミヲ無差別ニ取扱フ理由ナキモノト認ム独逸トノ關係ニ於テハ仏國側ノ主張スルカ如ク無条件年金ノ支払ハ延期セラレサルヘシトナリ居ルコトハ認ムルモ「フーバー」



コトハ今日ヨリ明カニ留保シ居ル次第ニシテ之カ為批准条項カ存置セラルル訳ナリト思考ス實際ノ運用問題トシテハ協定中ニ先般申進メタル如ク過渡の規定ヲ設クルカ若ハ協定調印後各債権国政府ハ決済銀行ニ対シ協定批准迄暫定的ニ協定所定ニ従ヒ独逸ノ支払ヲ処理スヘキコトヲ通告スルヲ以テ足ルヘク(此点ハ起草委員会成立後ニ非サレハ判明セサルヘキモ何レノ方法ニ依ルモ差支ナキ訳ナリ)右通告後事実帝国議會ノ協賛ヲ必要トセラルルモノトセハ次期議會ニ付議セラレタル上批准ノ手続ヲ執ラレ差支ナカルヘシト思考セラル

右様ノ次第ナルヲ以テ米仏妥協案カ採用セラルル迄ニハ尚多少ノ曲折アルヘキモ結局他国カ總テ同案ニ賛成スルニ至ル場合ニハ海牙協定ノ批准条項ト同趣旨ノ条項ヲ採用セシムルト共ニ同案ニ賛成ノコトト致度ク同案第二点ニ関スル政府ノ御解釈ト卑見トノ間ニ多少ノ懸隔アルヤニ氣遣ハルルヲ以テ往電第二二三三三號ヲ以テ申進メタル次第ハアルモ同電追捕旁重ネテ申進ス就テハ前記往電ト共ニ右篤ト御考量ノ上何分ノ儀至急御回電相成様致度シ

尚「ドーズ」年金最後ノ五ヶ月残余金ヨリ我方カ仏国ニ為

スヘキ支払ニ付テハ往電第二五八號ノ如ク仏国委員ハ支払猶予ノ適用アル旨ヲ声明シ又白耳義委員ハ本官ノ問ニ対シ同様適用アル旨ヲ内話シタル処政府ニ於テハ本件支払猶予ノ適用アルヘキモノトシテ協定中ニ挿入セシメラルル御意向ナリヤ併セテ御回電ヲ請フ

仏、独、伊、白、米へ暗送セリ

364 昭和6年8月1日 幣原外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

#### 財政専門家會議において作成されるべき協定 の実施規定につき訓令

本 省 8月1日後発

第一六四号

貴電第二六六号ニ関シ栗山参事官へ

今回ノ會議ニ於テ作成セラルヘキ協定ハ貴見ノ如ク結局「ヘーグ」諸協定ノ一部改訂トナルヘキ様認メラルル処其ノ際ニ於ケル協定ノ実施規定ニ付テハ「ヘーグ」協定ノ例ヲ追ハス他ノ形式ニ依リ度キ考ナリ実ハ枢府審査委員會ニ於ケル「ヘーグ」諸協定審議ノ際協定ノ実施規定カ表面ノ

仏、独、伊、白、米ニ転送アリ度シ

365 昭和6年8月1日 在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

#### 無条件年金の分配に関する英伊兩國の異議に ついて

ロンドン 8月1日後発  
本 省 8月1日後着

第二七〇号  
栗山ヨリ

往電第二六六号ニ関シ英伊カ「フーバー」案ヲ希望シ米仏妥協案ニ異議ヲ挟ムハ実ハ我方トハ其ノ趣旨ヲ異ニシ米仏案ニ依リ仏国独逸ノ無条件年金ヲ取得スルニ対スル問題ニシテ會議ノ進捗ニ伴ヒ其ノ趣旨サヘモ明カトナリ伊国委員ノ如キハ米仏案第二点カ無条件年金ヲ独逸鉄道会社社債ニ投資スル問題ニ付兎角難問ヲ持チ出シ来リタルカ一両

日来右社債ヲ債権国間ニ分配スヘシトノ主張ヲ夫トナク洩ラスニ至レリ依テ本官ハ三十日伊国委員ニ就キ右意向ヲ確ムルト共ニ英國側モ同様ナリヤト尋ネタルニ英國モ分配ヲ

形式ハ別トシ實際ニ於テ帝國ノ批准ヲ俟タスシテ効力ヲ發生スルコトトナルノ点ニ於テ一部顧問官ノ批難ヲ受ケ殊ニ帝國カ他ノ四國ニ先チ批准セサル旨ノ文書ヲ交換シタル顛末顧問官ニ知レタル為貴見ノ如ク「ヘーグ」ノ前例ヲ追フトキハ再ヒ紛糾ヲ招クノ虞アリ他方今回ノ協定ハ内容極メテ簡單ノモノタルヘク拙方批准手続モ極力取急クニ於テハ相当期間内ニ完了シ得ヘキノミナス協定ノ内容タル事項ハ各國共既ニ七月一日ヨリ事實上実行シ居ル所ニシテ単ニ協定ヲ以テ此事態ヲ確認シ形式ヲ整フルニ過キス格別実施ヲ要スル事情モナキ様認メラル

依テ今回ノ協定ニ於テ御見込ノ如ク特定國ヲ指示スル際ニハ帝國ヲモ之ニ加フルハ勿論右特定國全部ノ批准ニ依リ効力ヲ發生スルノ形式ヲ執ルコトト致度シ若シ關係國ニ於テ特ニ実施ヲ急ク事情アラハ他ノ形式ニ依ルコト止ムヲ得サルモ其ノ際ハ前述ノ事情篤ト御考量ノ上機宜ノ措置ヲ執ラル様致度シ

尚協定内容ニ関シ批准前ニ議會ニ付議スルヲ要スルヤ否ヤニ関シテハ目下關係省ト協議中ナルカ不取敢上記ノ点御含マテニ電報ス

希望シ居ル旨ヲ内話セリ仏国ハ「ヤング」案ニ依ル「モラトリアム」ノ場合ニ払込ムヘキ保証資金ヲ「フーバー」休日年度ニ対シテ之ヲ提供セサルモノナルヲ以テ英伊白等ヨリ今回仏国ノ取得スヘキ無条件年金ノ分配ヲ申出ツルモ亦已ムヲ得サルヘク我方トシテハ「スパ」率以上ニ無条件年金ヲ取得スル事トナリ得ルヲ以テ本問題ニ係合ハサルヲ得策ト認メ居ル次第ナルカ委員会トシテハ重要問題ハ本三十一日ニ至ル迄決定ヲ見ルニ至ラス從テ報告ヲ控ヘ居タル次第ナルモ右分配問題ニシテ英伊白ニ満足ヲ与フルニ至ラハ彼等モ米仏案ニ賛成シ会議モ急速終了スヘシト認メラレタルニ依リ三十一日日本官ハ英國委員ニ対シ分配問題解決シタルヤト尋ネタル処昨夜遅ク迄本件話合ヲ為シタルモ遂ニ妥結スルニ至ラザリシト答ヘタリ

右ノ次第二ニテ未タ「フーバー」案ヲ採択スヘキヤ若ハ米仏妥協案ニ依ルヘキヤノ問題ニ付テハ深く立入りテ審議スルコトヲ避ケ米仏妥協案採択セラルル仮定ノ下ニ今日迄審議シタル結果ヲ纏ムルコトトシ委員会ノ報告案(条約案ニ付テモ審議スル筈)本三十一日午後ヨリ八月一日ニ亘リ起草委員会ヲ開クコトトナリ委員トシテハ同日ヲ以テ一先ツ休

外務大臣宛電報第二九二号

右批准条項案の修正について

ロンドン 8月2日後發

本省 8月2日後着

第二七五号(大至急、極秘)

貴電第一六四号ニ関シ

栗山ヨリ

御回訓遅レタル為本一日午後委員会ニテ「プロトコル」批准条項問題トナリ本官ハ海牙協定批准条項ノ主義ヲ認メタル次第ナルカ其際他国委員ハ我方ハ海牙協定ト同様四国ニ先チ批准セサルヘキ旨ノ約束ヲ与フヘキヤヲ尋ネタルニ付右ハ政府ニ請訓ノ上ナラテハ回答出来スト答ヘ置キタリタ刻ニ至リ前記貴電接到本日夜ノ法律家委員会ニテ右批准条項審議ノ際本官ハ本「プロトコル」ハ独逸ヲ除ク他ノ五國中四国トセス日本ヲモ加ヘタル英、仏、伊、白、日ノ五国ノ批准ニ依リ発効セシムヘシトノ訓令ニ接シタル旨ヲ告ケ右様起草センコトヲ求メタリ右ニ対シ英國委員ハ日本ハ未タ海牙協定自身ヲ批准シ居ラサルニ本「プロトコル」ノ発効ニ要スル批准中ニ日本ノ批准ヲ加フルコト困難ナラスヤ

会シ更ニ八月十一日本会議ヲ開キテ右起草委員ノ作成シタル報告案文ヲ審議スルコトナレリ而シテ關係国間ニ於テハ其間ニ分配問題等意見ノ一致ヲ見サル点ニ関スル話合ヲ続クル模様ニシテ若シ右話合纏マルニ於テハ同日ノ本会議ニ於テ米仏妥協案ニ依ル条約案ヲ採択スルコトナルヘシ依テ本官ハ英國首席委員ニ対シ右採択ノ場合將來英國ニ於テ調印ノ會議ヲ開ク意向ナリヤヲ尋ネタル処同委員ハ別ニ會議ヲ開クコトナク外交代表者ニ依リ調印セラルルコトナルヘシト内話シタリ

米、仏、独、伊、白へ転電セリ

366 昭和6年8月2日 在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

議定書批准条項に関する審議について

別電 昭和六年八月二日付在英國松平大使より幣原

外務大臣宛第二七六号

我が方要望を容れた議定書批准条項案について

付記 昭和六年八月七日付在英國松平大使より幣原

仮ニ枢密院カ海牙協定夫自身ヲ批准セストセハ其結果本「プロトコル」ハ発効シ得サルコトナルヘシト語り又独逸委員ハ日本ノ批准ハ非常ニ手間取ル様承知シ居ル処日本ノ批准アルニアラサレハ条約発効セサルコトトセハ成程暫定規定ハアリトスルモ本「プロトコル」ハ永キニ亘リ不確定ノ状態ニ在リテ独逸トシテハ不安ヲ感セサルヲ得スト述ヘ又仏委員ニモ多大ノ難色アリタルモ本官ハ本「プロトコル」ハ海牙協定ト異リ調印ニ依リ暫定的ニ七月一日ニ遡リ効力ヲ發生スル規定アリ他方米國議會ハ十二月前ニ臨時召集セラルルコトアリトスルモ(右ハ米國委員カ過日本官ノ問ニ対シ内話シタル所ナリ)實際關係主要國ハ独逸ハ別トシ米國上院ノ批准アル迄ハ各自其批准ヲ差控フヘシト思考セラルルノミナラス本「プロトコル」ハ海牙協定ノ如ク広汎ナルモノニアラサルヲ以テ帝國政府モ其批准ヲ迅速ニ取運ヒ得ル趣ナルニ付兎ニ角五國中四国トセス日本ヲモ加ヘタル五国トセンコトヲ要求シタルニ他國委員何レモ極メテ躊躇ノ色アリ且海牙協定ノ批准ハ如何成リ居ルヤトノ質問モアリタルニ付本官ハ近々批准セラルルモノト承知シ居ル旨ヲ告ケ帝國政府ハ本「プロトコル」ノ批准ニ付重大ナル

責任ヲ負フ次第ナルヲ以テ本官モ此点ニ付テハ更ニ帝國政府ノ再考ヲ促シタキ考ナルモ兎ニ角十一日委員会報告確定迄本官ノ提案ヲ採用センコトヲ求メタル結果一先ツ別電第二七六号ノ案文ニ落着キタリ

御承知ノ如ク海牙諸条約ハ対独平和条約以来欧州ニ於ケル最重要ナル条約ナル処該条約ハ調印後一年半ニ至ルモ帝國政府ノ批准ヲ見サル為關係国委員ハ我方ノ批准ノ極メテ困難ナルヲ思フト共ニ之ニ信ヲ置カサル口吻ヲ洩シ居ル次第ナリ「フーバー」提案ヲ実施スルニ必要ナル諸協定ハ一、対独賠償ニ関スルモノ（本件「プロトコル」）二、關係国間ノ支払ニ関スルモノ三、其他東方賠償ニ関シ国別ニナサルヘキ諸協定等数多成立セシムヘキ必要アリ尤モ右諸協定トモ御来示ノ如ク内容複雑シ居ラサルヘシト雖（対独賠償以外ニ付テハ問題未解決ノモノアルニ付未タ条約案起草セラレス）本「プロトコル」ニ付御訓令ノ如キ主張ヲ為ス以上他ノ諸協定ニ付テモ同様ノ主張ヲ為ササルヲ得サルヘク海牙協定ハ近々批准セラルルト仮定スルモ他ノ東方賠償ニ関スル諸協定ハ果シテ近々同様批准セラルル次第ナルヤ本官モ英国委員ノ質問ニ対シテハ頗ル弁解ニ苦シミタル次第ニシ

テ今ノ処英國専門首席委員ノ内話ニ依レハ十一日ニ委員会ノ報告ヲ承認シ引續キ十五日頃本「プロトコル」ノ調印ヲ行ヒ度キ意向ナリトノ事ニテ理論上ヨリ言ヘハ少クトモ本「プロトコル」調印前ニ於テ帝國政府ニ於テ海牙協定ヲ批准セラルル確約ヲ与フルニ非サレハ御来示ノ如キ主張ヲ為シ得サル訳合ナリト思考セラル独逸委員モ本官ニ対シ日本ハ斯ノ如キ重大ナル責任ヲ負フ実質的利益アリヤト尋ネタル位ニテ本官モ前顯ノ如ク十一日迄ニハ政府ノ考慮ヲ促スヘキモ一応五国トスヘキ旨ヲ主張シ置キタル次第ナリ独逸ヲ始メ仏英伊白何レモ本件ハ「バイタルインタレスト」ノ問題ニシテ我方ノ如ク「フーバー」案ニ依ルモ又ハ米仏妥協案ニ依ルモ何レニシテモ可ナリト言フカ如キ會計法規上ノ「テクニク」ノ問題ニ非ス又貴電第一六四号ニ依レハ協定ノ内容タル事項ハ各国トモ既ニ七月一日ヨリ実行シ居ル処ニシテ単ニ協定ヲ以テ事態ヲ確認シ形式ヲ整フルニ過キス格別急施ヲ要スル事情ナカルヘシト輕ク解釈シ居ラル模様ナル処成ル程独逸ハ各国ニ先立チ批准スヘク米國ニ次テ仏國批准スルモノト仮定スルニ仏國議會ハ急ニ開會セラルル予定ニテ我方ノ批准モ之ニ前後シ取計ハレ差支ナキ

儀ナルモ海牙協定自身ヲ批准シ居ラサル帝國政府ハ我方ニ緊密ノ關係ナキニ拘ラス同協定ノ批准ト共ニ本「プロトコル」ノ批准ニ付極メテ重大ナル責任ヲ負ハシメラルモノト認メラル

卑見ニ依レハ海牙協定ノ例ヲ追フ事望マシカラストセハ独逸、仏國、英國、伊國、白耳義ノ批准ニ依リ発効セシムル事トスルカ又ハ夫レモ対面上好マシカラストノ御意向ナルニ於テハ我方特殊ノ事情ヲ關係主要國ニ諒解セシメラルト共ニ本「プロトコル」ト同一内容ノ单独条約ヲ独逸トノ間ニ締結セラルル方然ルヘキヤニ思考セラル

#### (別電)

ロンドン 8月2日前発  
本省 8月2日後着

第二七六号(大至急)

Present protocol of which French and English are both authentic shall be ratified and the ratification shall be deposited at Paris as soon as possible.

Governments whose seats are outside Europe will be entitled merely to inform French Government through their diplomatic representatives at Paris that their ratification has been given: in that case they must transmit instrument of ratification as soon as possible. As soon as present protocol has been ratified by following Governments i.e. Governments of Belgium, Germany, the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland, France and Japan, it shall come into force between those Governments whose ratifications have been deposited or notified at that date. It shall come into force in respect of every other signatory Government on date of notification or deposit of ratification.....

#### (付記)

ロンドン 8月7日後発  
本省 8月8日前着

第二九二号

往電第二七六号ニ関シ

一、前電中其後字句ノ修正セラレタル点左ノ通

第二項ノ seats are 〽 seat is 〽 to inform 〽 to notify 〽 at Paris 〽 in Paris 〽 及第三項中 ratified by the following governments i.e.governments of (脱) the following governments i.e.ヲ削除シ

二、前電末尾「以下略」ノ個所為念電報ス

The French Government will transmit to all the signatory Governments and to the Bank for International Settlements a certified copy of the procès-verbal of each ratification, and a certified copy of each notification.

Done at London the-day of August, 1931, (datsu) in the archives of the Government of the French Republic, which will transmit certified copies to the signatory Governments.

~~~~~

367 昭和6年8月3日 在英国松平大使より
幣原外務大臣宛(電報)

368 昭和6年8月3日 在英国松平大使より
幣原外務大臣宛(電報)

議定書案および報告書案の採択について

付記一 昭和六年八月三日付在英国松平大使より幣原

外務大臣宛電報第二七八号

議定書案要領

二 昭和六年八月三日付在英国松平大使より幣原

外務大臣宛電報第二八二号

報告書案要領

三 昭和六年八月一日付在英国松平大使より幣

原外務大臣宛電報第三〇六号

議定書案の修正について

ロンドン 8月3日後発
本省 8月3日後着

第二八〇号

栗山ヨリ

委員会ハ二日議定書案其他委員会報告案(往電第二七八号及第二七九号)ヲ採択シ往電第二七五号ノ通十一日迄休会スルコトナレリ

議定書の暫定的効力発生のための国際決済銀行に対する共同通告について

ロンドン 8月3日前発
本省 8月3日後着

第二七七号

栗山ヨリ

議定書第五条ニ依リ暫定的ニ効力ヲ発生セシムルニハ債権国ヨリ国際決済銀行ニ通知ヲ与フルノ要アルコトハ御承知ノ通ナルカ之カ為ニハ議定書署名ノ日ニ署名国代表者ヨリ国際決済銀行ニナスヘキ共同通告文ヲ発スル手配ナルカ其要領左ノ通

本議定書署名国代表者ハ茲ニ議定書ヲ送付スルト共ニ関係国政府ハ議定書ノ効力発生迄ノ間仮ニ本年七月一日ニ遡リ同議定書ヲ実施スルコトニ決定セルヲ以テ国際決済銀行ノ関スル限り本通告文到着ノ日ヨリ議定書ノ規定ヲ実施スルコトヲ認メ且之ヲ要求ス独逸政府ハ本通告文ノ内容ニ同意ナル旨声明セリ云々

米、仏、独、白、伊へ暗送セリ

~~~~~

一、右休会中會議参加国ハ各本国ニ対シ本議定書案ヲ報告シテ其承認ヲ求ムルト共ニ會議不参加ノ関係国政府ニ対シテモ報告案ヲ内示シテ其意見ヲ求ムルコトナリタル外他方仏国ノ無条件年金分配問題ニ付テハ仏白間ニ又白国馬克清算問題ニ付テハ独白間ニ交渉ヲ進ムルコトナリ居リ自然此等諸件ニ付関係国ノ意見ノ一致ヲ見ルニ於テハ十一日ノ會議ニ於テ該報告案ノ最終的決定ヲ見ル筈ナリ右各種問題ノ外独逸側ノ留保モアルコトニテモアリ十日頃ニ一応内協議會ヲ開催スル予定ナリ

二、報告案ノ承認ハ結局議定書案ノ承認ヲ意味スル処議定書署名ノ期日ニ付委員會ノ意見ヲ質シタルニ多数委員ハ十一日ノ會議ニ於テ意見ノ一致ヲ見ル上ハ十二日頃署名ヲ行ヒタシトノコトナルカ或ハ多少遅延スルコトアルモ十二日後間モ無ク署名ノ運トナルヘキ見込ナルニ付右子メ御含アリタシ

三、関係国中例ヘハ「ユーゴースラビア」国ノ如キハ本案ヲ認ムルコトニ依リ歳入欠損ヲ来シ之カ補填ノ途ヲ講スル必要アル等ノ理由ニ依リ批准ヲ躊躇スルコトアルヘク旁此際全部ノ署名ヲ了スルコト困難ナルヘク斯ル場合ニ

ハ別ニ議定書加入ニ関スル事項ヲ設クルコトナルヘシ  
四、本議定書案ハ対独賠償問題ノミニ係リ東方賠償問題ニ  
触レサル処本年中東方賠償ニシテ最初ニ支払ハルヘキモ  
ノハ来ル十月一日ナルヲ以テ本件ハ夫迄ニ解決スルコト  
トシ差当リ対独問題ノ解決ヲ見タル次第ナリ

五、批准条項ニ付テハ二日ノ委員会ニ於テ一日ノ法律家委  
員会ノ原案ヲ其儘採択シタリ從テ我方ノ批准ニ関スル責  
任ハ往電第二七五号申進ノ通重大ナル事情モアリ旁本官  
ハ為念独逸側ノ批准時期ニ付独逸委員ノ意向ヲ求メタル  
ニ現下ノ政情ニ於テハ独逸政府ハ此際特ニ臨時議會ヲ召  
集スルカ如キコトナカルヘク多分今秋ノ通常議會ニ於テ  
批准ヲ了スルコトナルヘキ旨ヲ答ヘ又「マルキン」ニ  
對シ日本ハ大体何時迄ニ批准セハ可ナルヤト質シタルニ  
遅クモ今年内ニ了スルノ要アルヘキ旨ヲ語り伊国委  
員ハ他ノ關係国力速ニ批准ヲ了シタル場合ニハ日本モ取  
急キ之ヲ了スル見込ナリヤト確メタルヲ以テ本官ハ私見  
トシテハ勿論其通りナルヘシト答ヘ置キタル次第ナリ  
以上ノ如キ事情モアリ我方ニ於テモ他主要債權国ト同一  
歩調ニ出テラレ本件議定書案文ノ採択ニ同意セラルルニ

ハ結局議定書案自体ニ反対スルモノニ非スヤトノ意見モ  
アリ到底同意ヲ得ル見込無カリシニ付本官モ之ヲ委員會  
ニ提案スル事ハ差控ヘタル次第ナリ尚右四ノ後段ニハ右  
協定ノ成立ヲ妨クルカ如キ事態ナルニ於テハ次期ノ議會  
ノ協賛ヲ経ル迄暫定的ニ支払猶予ノ形式ヲ執ル事ノ除外  
例ヲ求ムル事トシ本案ニ同意ヲ与ヘ差支無シタル処元  
來本議定書案ハ米仏妥協案ヲ採択セラルル場合即チ無条  
件年金ニ付テハ支払猶予ヲ認メサル建前ニテ作成セラレ  
タルモノニシテ之ニ對シ我方ニ於テ已ムヲ得ス同意スル  
場合ニハ御訓示ノ如キ除外例ヲ認メ得サル筋合ナリ從テ  
日本側ニ於テ是非共支払猶予ノ形式ヲ執ラルル事必要ナ  
レハ単独条約ヲ締結セラルルヨリ外無シト思考ス

八、「ドーズ」案採用ノ五ヶ月ノ剰余金中我方カ仏白ニ支払  
フヘキ分ニ付政府間ノ支払トシテ「フーバー」案ノ適用  
アリトスヘキヤ否ヤニ付テハ未タ御回訓ニ接セサル処委  
員會報告ノ趣旨ヨリスレハ適用セラルル事トナリ居リ而  
シテ支払ヲ猶予セラルル場合ニモ我方トシテハ批准手續  
ヲ避ケラルル為政府間支払猶予ニ関スル協定ニ参加セラ  
レス「ヘーグ」ニ於ケルト同様仏白トノ間ニ文書ノ交換

於テハ海牙条約ヲ取急キ批准セラルルト共ニ本議定書ニ  
付テモ少クトモ来ル十一月末日迄ニハ何時ニテモ御裁可  
ヲ経得ル程度迄批准手續ヲ了シ置カルルコト絶対ニ必要  
ナルヘク自然貴電第一六四号ノ如ク海牙協定ニ對シ枢密  
院方面ニテ種々困難ナル事情アリ同協定ノ批准時期ニ付  
御見込立タサル場合從テ本議定書ノ批准モ到底右ノ時期  
迄ニ取運ヒ難キ御懸念モアラハ此際効力発生關係批准国  
ヲ四国トシ我方ヲ除外スルコト得策ナルヘキヤニ思考セ  
ラル

六、報告書案中独逸以外ノ賠償問題ニ付テモ我方トシテ特  
ニ主張スヘキ事モ無シト認メラルルニ付大勢ニ順應シ出  
來得ル限り原案ニ同意ヲ与フル事トシ度シ

七、貴電第一五〇号ノ四ニハ当該国ノ事情ニ依リ米仏兩案  
ノ何レニモ依リ得ヘキ事ヲ提案致シ度シタル処元來右  
議定書案ハ米仏妥協案カ其儘採択セラルル事ノ前提トシ  
テ作製セラレタルモノニシテ我方案ヲ挿入スル事トナレ  
ハ該議定書ノ価値ヲ減殺スルモノナル事ハ前回申進ノ通  
ナルカ本官ハ議定書案作製前試ニ關係国ノ同僚ニ御訓令  
ノ趣旨ノ条項挿入方ニ付意向ヲ質シタル処斯ノ如キ条項

ヲ為スニ止メラレ然ルヘシト思考ス

九、以上各項至急御詮議アリ度ク十日迄ニ御訓電ニ接セサ  
ルニ於テハ御承認アリタルモノトシテ十一日ノ會議ニ臨  
ム事ト致シ度ク右子メ御承知置アリ度シ  
別電ト共ニ米、仏、独、伊、白ニ暗送セリ

## (付記二)

第二七八号  
議定書案要領  
前文 略  
ロンドン 8月3日前發  
本 省 8月3日後着

第一条 本議定書ニ依リ「ドーズ」公債及「ヤング」公債  
ノ元利払ハ何等ノ影響ヲ受ケス

第二条 本年七月一日ヨリ明年六月三十日ニ至ル無条件年  
金及本年八月ヨリ明年七月一日ニ至ル賠償税ノ支払ハ付属  
書第一ニ依ル

第三条 本年七月十五日ヨリ明年六月三十日ニ至リ猶予セ  
ラルヘキ条件付年金ハ一九三三年七月十五日ヨリ利子(利

率ハ未定)ヲ付シテ同年同月一日ヨリ十ヶノ等額年賦金トシ毎月十五日ニ等額支払ニ依リ償還セラルヘシ右償還ハ絶対的外貨支払ノ債務ニシテ猶予ノ「オーブション」ヲ認メス(但シ此点ニ付テハ独逸ハ留保ス)右条件付年金ノ「クーボン」ハ独逸政府及国際決済銀行ニ依リ裏書セラルヘシ  
 第四条 本年七月一日ヨリ明年六月三十日ニ至ル実物引渡ハ付属書第二(要領往電第二七四号ノ通)ニ依ル  
 第五条 本議定書ハ署名ト同時ニ第六条ニ依ル効力発生ノ時迄本年七月一日ニ遡リ仮ニ適用セラル  
 第六条 往電第二七六号ノ通(但多少字句ノ修正アリ前条及本条必要アラハ全文電報スヘシ)  
 末文 本年八月……倫敦ニ於テ本議定書ヲ作製シ右ハ仏国政府ニ保管セラルヘシ  
 議定書付属書一要領

(一)「フーバー」年度中ノ無条件年金ノ支払ハ左ノ方法ニ依ル  
 (a)毎月十五日五千万馬克ヲ外貨ニテ国際決済銀行ニ支払フ

(b)同行ハ之ヨリ「ヤング」公債元利金ヲ支払フ

合ニハ本債券未償還分ニ対シテハ同順位ノ包括的抵当権ヲ設定スヘシ

(d)独逸政府ハ本債券ノ元利払ヲ保障ス本債券ノ元利金ニ対シテハ独逸ノ租税公課ハ課セラレス

(e)国際決済銀行ハ各国ノ無条件年金ノ取分ニ応シ鉄道債券ノ受領国及其金額枚数並支払通貨ヲ予メ鉄道会社ニ通知シ債券ノ交付ヲ受ク毎月各国ニ割当テラルル債券ハ五枚以上ニ分割スルヲ得ス且各券面額ハ二百万馬克相当額以下ナルヲ得ス

(f)債権国ハ右債券ヲ公共営造物(Caisse d'institutions ou établissements publics)ニ対シ譲渡質入シ又ハ之ヲシテ割引セシムルヲ得  
 但営造物ハ該債券ヲ同種営造物以外ニ再譲渡スルヲ得ス

(三)本処理方法ハ新案ニ依ル独逸政府及独逸鉄道会社ノ債務ヲ軽減シ以テ債権国ノ権利ヲ害スルモノニアラス殊ニ賠償税ハ新案ニ依ル年金総額ノ担保タル性質ヲ保有ス  
 (四)本処理方法ハ一九三一年七月一日ニ遡及シテ効力ヲ生ス  
 独逸政府及鉄道会社ノ仮受領証ハ鉄道債券ト交換ス

(c)其残額約四千五百万馬克ヲ直ニ外貨ニテ独逸鉄道会社ニ貸付ク

(d)債権国政府ハ独逸政府ノ同意ヲ得テ前記(a)及(c)並「ドーズ」公債元利払ノ履行ヲ条件トシテ「フーバー」年度中ノ賠償税ヲ払戻スニ必要ナル指図ヲ国際決済銀行ニ与フ

(二)鉄道会社ニ対スル貸付ニ付関係債権国ノ受託タル国際決済銀行及独逸政府並独逸鉄道会社ハ唯一ノ契約ヲ結フヘク関係債権国ハ国際決済銀行ニ対シ之カ為必要ナル権限及鉄道債券元利払ノ受領並分配ニ関スル権限ヲ与フヘシ  
 (a)貸付金ニハ一九三三年七月一日ヨリ利子(利率未定)ヲ付ス元利金ハ一〇年ノ等額年賦払トシ一九三三年七月十五日以後各月十五日ニ年賦金ノ十二分ノ一宛ヲ支払フ  
 本支払ハ絶対的債務ニシテ支払延期ヲ許ササルモノトス

(b)鉄道会社ノ債務額ハ毎月十五日ニ支払ハルル外貨金額ヲ以テ定ム

(c)鉄道会社法第八条第五項ノ包括的抵当権ヲ設定スル場

米、仏、独、白、伊へ暗送セリ

## (付 記 二)

ロンドン 8月3日後発

本 省 8月4日前着

### 第二八二号

専門委員会報告要領

### 第一 前文(省略)

### 第二 独逸賠償及連合国防債

(イ)猶予年金ノ償還ニ付テハ多数政府ハ財政的及行政的の見地ヨリ一年繰下ケル米大統領案ノ提議ヲ最善ト認ムルモ米、仏協定ニ於テ他ノ方法ヲ採用セルニ鑑ミ且迅速ニ協定ニ到達スルノ要アルニ因リ他ノ政府モ米、仏協定ノ方法ニ同意スルノ意アリ

依テ「フーバー」年度中猶予サルル海牙諸協定ノ支払及英、仏、伊ニ対スル支払ハ凡テ一九三三年七月一日以降十ヶ年ノ等額年賦金(利子未定)ニ依リ償還スル方法ヲ勧告ス但シ右ハ米国政府モ同一ノ方法ヲ採用スル事ヲ条件トス



償還年金債務ハ絶対的債務ニシテ延期ヲ許サス

(ロ)「ドーズ」公債及「ヤング」公債元利払ハ継続サルヘシ

(ハ)無条件年金ハ一旦支払ヒタル上独逸鉄道会社ニ貸付クヘク詳細ハ議定書案中ニ規定セリ

(ニ)前記(イ)ノ主義ニ依リ猶予サルル条件付年金一一八、〇〇〇、〇〇〇馬克ハ一九三三年七月十五日以降隔月十五日ニ等額償還セラルヘシ

(ホ)実物引渡ニ付テハ往電第二七四号所報ノ方法ニ依ル

(ヘ)羅馬尼及葡萄牙ハ実物引渡ニ異議アリ依テ委員会トシテハ其解決方法ヲ希望ス

(ト)希臘政府ハ独逸賠償ノ猶予ヲ承諾セルモ勃牙利及洪牙利ノ支払ニ付異議アリ

(チ)塞爾比政府ハ賠償ノ猶予ニ依リ政府ノ金融的地位ニ重大ナル影響アル事ヲ述ヘ委員ハ之ヲ諒トセリ後者ニ付テハ国際決済銀行及諸中央銀行ニ於テ其最高援助ヲ与ヘン事ヲ希望スルモ右ハ前記諸銀行ノ裁量及責任ニ於テ為サルヘキモノナリ

(リ)海牙協定支払ノ猶予ハ批准ヲ要スル議定書ニ依リ本年

ヘク其償還ハ独逸条件付年金ノ猶予部分ト同様タルヘシ

(イ)勃牙利、同国ノ支払モ總テ猶予サルヘキモノト認ムルモ Capandari Smolft Agreement (希臘ニ於ケル勃牙利避難民及勃牙利ニ於ケル希臘避難民ノ残シタル財産ニ対スル支払方法ニ関スル協定)ノ問題ハ予メ両国間ニテ解決スルヲ要スヘシ

第四 欧州諸国ニ対スル救済復興其他ノ片付ケハ賠償及戦債トハ異リ何レモ小額ナルヲ以テ若シ関係政府ニ於テ一年繰下クル方法ヲ希望スルニ於テハ此方法ニ依ルモ差支ナカルヘシ

米、仏、伊、白、独ニ暗送セリ

### (付記三)

ロンドン 8月11日後発

本省 8月12日後着

### 第三〇六号

第一 議定書案中追加及修正左ノ通

第三条「別段ノ協定ナキ限り三『パーセント』ノ利子ヲ付

七月一日ニ遡リ効力ヲ発生セシムヘキモノト認ム  
戦債ニ関スル手續ハ各場合ニ付債権国及債務国政府間ニ取極メラルヘキモノト認ム

<sup>(2)</sup>議定書及右ノ取極ハ直ニ仮ニ実行スル事トシ其旨国際決済銀行ニ通告スルヲ適當ト認ム右第一ニハ左記三ノ付属書アリ

(一)支払猶予ノ適用サルル債務ノ一覧表(省略)

(二)議定書(往電第二七八号ノ通)

(三)国際決済銀行ニ対スル通告文案(往電第二七七号ノ通)

### 第三 独逸以外ノ支払

(イ)土地基金及乙種基金(「オプタン・ホンダグロア」ニ関スルモノ)右基金ニ対スル払込ハ「フーバー」年度中ニ於テ能フ限り停止セラレサル事ヲ希望ス仏伊英白及塞爾比政府ハ其払込継続ノ意アリ匈牙利政府モ右土地基金ニ利用セラルル限度ニ於テ同国ノ賠償支払継続ヲ承認シ得ルモノト信ス又右基金ニ割当ラレタル勃牙利ノ賠償支払ニ関シ適當ノ取極ニ到達セン事ヲ望ム

(ロ)匈牙利ニ関シテハ前記ノ場合ノ外總テ支払ヲ猶予サル

シ年賦金一一七、八三一、〇〇〇『ライヒスマルク』ヲ追加ス(独逸ノ留保ハ撤回セラル)

第六条トシテ「本議定書ニ関シ関係政府間又ハ該政府ト国際決済銀行間トノ紛議ハ対独海牙協定ニ從ヒ処理セラルル」旨ノ規定ヲ挿入ス

第七条往電第二七七号所報第六条ニ同シ

第八条対独海牙条約署名国ハ第七条ノ規定ニ基キ本協定効力発生ノ日迄本協定ニ署名スルコトヲ得

其以後ハ前記政府ハ仏国政府ニ対スル通告ニ依リ本協定ニ加入スルコトヲ得右ノ場合本議定書ハ該政府ニ対シ其加入ノ日ヨリ効力ヲ生ス(本案ハ「ユーゴースラビア」ニ対シ設ケラレタルモノナリ)

第二 議定書第一付属書中修正ノ個所左ノ通

(一)ノ(c)「国際決済銀行ニ依リ」貸付クルコトニ修正

(二)ノ(a)ノ前ニ左記ヲ挿入ス

「国際決済銀行ハ本議定書ノ規定ニ適合スル様該契約ノ暫定的及確定的適用ニ付必要ナル措置ヲ執ルヘシ」

(a)「別段ノ協定ナキ限り」本貸付金ニハ「三『パーセント』ノ利子」ヲ付スト修正

第三 債権金額表示通貨ニ関スル独逸ノ留保ハ撤回セラル  
議定書第二付属書中修正箇所ノ通

第一(一)ヲ全部「現在資金ヲ使用シ尽セルトキハ債権国又ハ  
其官庁ノ予算負担ヲ伴フカ如キ承認済契約ノ履行ハ『フー  
バー』年度中之ヲ停止スルコトヲ得」ト修正シ独逸委員ハ  
委員会ニ於テ各債権国ハ之カ為ニ個人ノ權利ヲ侵害セサル  
コトニ努メラレタキ旨ヲ声明シテ第二(イ)留保ヲ撤回セリ  
第四国際決済銀行ニ対スル共同通告文末段ニ左記ヲ挿入ス  
「国際決済銀行ハ本議定書第六条ノ規定ヲ承諾センコトヲ  
希望ス」

第五「チエツコスロヴァキア」関係議定書修正左ノ通

第一条「別段ノ協定ナキ限り右支払額ハ云々」ト修正シ年  
金額「一、一四六、七〇〇金馬克」ヲ挿入ス  
米、仏、独、白、伊へ暗送セリ

昭和6年8月6日 在仏国芳澤大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

英国より無条件年金に関する共同宣言へ我が  
方参加方要請について

別電 昭和六年八月六日付在仏国芳澤大使より幣原  
外務大臣宛第二二二号  
右共同宣言案

パ リ 8月6日後発  
本 省 8月7日後着

第二二一号

栗山ヨリ

英国委員ヨリ別電第二二二号共同宣言案ヲ送付越シ白耳義  
政府ノ賛否ハ確カナラサルモ日本政府ノ意向ヲ承知シ度キ  
旨本官宛申来レリ(伊ニ関シテハ来翰中ニ言及シ居ラサル  
モ同国ハ初ヨリ「フーバー」案ニ賛成シ来レル關係上勿論  
異存無キモノト思ハル)本宣言案ノ底意ハ主トシテ英伊側  
ニテ仏カ多額ノ無条件年金ヲ取ルコトニ衝突カントスルニ  
在リ自然分配問題等ヲ惹起スル魂胆有ルモノト察セラル我  
方トシテハ現ニ「スバ」率以上ノ無条件年金ノ分配ヲ受ク  
ルモノナレハ仮ニ仏カ受クヘキ無条件年金ヲ他国ニ分配ス  
ルトシテモ之ニ均霑シ得ル次第ニアラス尤本案ノ骨子ハ無  
条件年金ト条件付年金トヲ差別待遇セサルコトニ係リ又  
「フーバー」案ノ方ヲ望マシキモノトスル趣旨ナレハ我方

ニ於テモ會議ニ於テ「フーバー」案採用ニ賛意ヲ表シ居ル  
行懸上本宣言案ニ賛成セラルルモ差支無シトハ思ハルルモ  
我方ハ英伊等トハ自ラ其立場ヲ異ニシ居ルヲ以テ彼等ト組  
テ特ニ仏ニ衝突ク必要無キヤニモ思考セラル  
右ノ事情篤ト御考慮ノ上何分ノ儀御回電アリタシ  
本電ノミ英ニ転電シ別電ト共ニ米、独、白、伊ニ暗送セリ

(別電)

パ リ 8月6日後発  
本 省 8月7日後着

第二二二号

Draft.

On occasion of signature of protocol for application of  
proposal of President Hoover to German reparation  
annuities, following declarations have been made : -  
Undersigned, on behalf respectively of Governments  
of Belgium, Great Britain and Northern Ireland, Italy  
and Japan make following declaration;

As regards principles of applications of President

Hoover's proposal, Governments of Belgium, Great  
Britain and Northern Ireland, Italy and Japan would  
much have preferred simple system of postponing all  
payments for one year throughout whole period of  
Young Plan. But in order to achieve unanimity,  
aforesaid Governments are willing to agree proposals  
embodied in Franco-American agreement. These  
proposals have, however, effect of imposing substantial  
additional burden on Germany during the years 1933  
onwards which may have effect of prejudicing position  
of these Governments. In application of these  
arrangements, therefore, they must naturally reserve  
entirely their rights and interests under existing  
agreements. These agreements provide that within  
frame work of New Plan the various creditor  
Governments shall not be prejudiced by special location  
to France out of the unconditional annuity and it is  
essential that arrangements now proposed should not  
have the effect of invalidating that principle. They

would be glad to have assurance that French Government had no intention of the kind. As regards payment of unconditional annuities Governments of Belgium, Italy, Japan and United Kingdom do not consider that any special procedure was required. They point out that proposal of President Hoover applied to all inter-governmental debts, whatever their character. In their view, it is always open to Creditor Government to suspend payment of any debts due to it, and that such suspension, in no way derogates from the stipulations governing the debt in question. Nevertheless in view of the Franco-American agreement, they are prepared to agree the Bank for International Settlement should obtain German Railway Bonds in respect of the whole amount of the unconditional annuity, and they will raise no objection in present circumstances to distribution of these bonds between the Creditor Governments in proportion to their respective shares in the unconditional annuity, on the understanding that all

postponed German payments whether conditional or unconditional shall be repaid in all circumstances on precisely same basis.

Undersigned, on behalf of French Government make the following declaration;

French Government have taken note of the above declarations and are in entire agreement with them.

370 昭和6年8月7日 在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

#### 國際決済銀行に対する共同通告文案について

別電 昭和六年八月七日付在英國松平大使より幣原

外務大臣宛第二九五号

右共同通告文案

ロンドン 8月7日後発  
本 省 8月8日前着

第二九四号

往電第二七七号ニ関シ

國際決済銀行ニ対スル共同通告文案全文、大蔵省ヨリ湯本

ヲ通シ依頼アリタルニ付別電第二九五号ノ通り電報ス

#### (別電)

ロンドン 8月7日後発  
本 省 8月8日前着

第二九五号

Appendix I

Letter to-

The President,

Bank for International Settlements.

Sir,

On behalf of our respective Governments we have the honour to transmit to you herewith a copy of a Protocol signed in London on the ....August, 1931, in order to give effect to the proposal of the United States of America in so far as concerns the German obligations under the New Plan as defined in London Agreement with Germany of the 20th January, 1930.

It will be observed that the Protocol will come into

force on ratification by the Signatory Governments as set forth there in;

<sup>(2)</sup> me meanwhile the Governments which were present have decided to put the Protocol into immediate force provisionally with retrospective effect to the 1st July 1931, and accordingly authorise and request you to be good enough to give effect to dispositions of the Protocol, so far as the Bank for International Settlements is concerned, as from the date of your receipt of this letter, and in particular

(1) to refrain from claiming payment of the Conditional Annuity up to 30 June 1932

(2) immediately to relend to the German Railway Company the Unconditional Annuity paid up to the same date, so far as not required for the service of the German Government International 5.5% Loan 1930, and

(3) to refrain from claiming payment of The Reparation Tax up to and including the July, 1932, provided that the conditions for the liberation to the

Tax laid down in (脱) to the Protocol have been fulfilled.  
The contents of this letter have been communicated to the German Government, which has declared itself in agreement with its terms.

371 昭和6年8月7日 幣原外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

議定書の批准問題等につき訓令

本 省 8月7日後発

第一六七号(至急)

貴電第二七五号第二八〇号及第二八五号ニ関シ

栗山参事官へ

(一)其ノ後「ヘーグ」対独協定ノ枢府審査進捗シ審査報告書モ略完成シタル趣ニシテ大体本月中旬ニハ御批准相成見込ナルニ付右協定ノ我方批准手續ノ進捗振カ問題トナリタル際ハ右ノ事情ヲ説明セラレ可然応酬アリタシ

(二)批准条項ニ関シテハ貴電第二七六号ノ通り帝国ヲモ効力發生ニ必要ナル批准国内ニ加ヘ置カレ度ク本件議定書ノ批准ハ御来示ノ十一月末迄ニハ完了シ得ル見込ナリ御

申越シノ如キ独、仏、英、伊、白ノ批准ニ依リ発効セシムル案ハ「ヘーグ」會議招請國中又ハ現在ノ専門家會議参加国中帝国ノミカ発効關係国ヨリ除外セラルコトトナリ不都合ナリ又「ヘーグ」対独協定ノ前例ヲ追ヒ他国ニ先チ批准セサルコトノ「アッシュランズ」ヲ与フルコトハ他日紛議ヲ招クノ虞アルニ付之ヲ避クルコトト致度シ万一關係國中貴電第二七六号ノ案文ニ異議アル場合ニハ前記ノ事情及必要アラハ起草委員會ノ作成セル「ヘーグ」協定批准条項案ニハ帝国ノ批准モ新案実施ノ条件トナリ居リタル経緯等(昭和四年在仏大使来電第四五七号参照)ヲ篤ト説明セラレ度

(三)当方ニ於テハ仏米協定案ヲ本邦カ賠償金ヲ受領シタル上之ヲ改メテ独逸ニ貸付クルモノト解シ之カ実行ニ付テハ歳出予算ヲ要スルモノトシテ往電第一六四号ノ通り訓令セル次第ナルモ貴電第二七八号「プロトコール」案及湯本ヨリ財務官宛電報ニ依レハ独逸力國際決済銀行ニ支払ヒタル賠償金ヲ各国別ノ名義ヲ以テセス銀行カ包括的ニ之ヲ独逸鐵道会社ニ貸付クルコトヲ各国政府カ銀行ニ指図シ銀行力之ニ依リ取得シタル鐵道会社債券ヲ各国二分

配セントスルモノナルヲ以テ本邦トシテ一旦賠償金ヲ受

領シ然ル後之ヲ貸付クルモノニ非サル筋合ト解セラルル從テ歳入歳出ノ手續ヲ經ス單ニ協定ノ効力トシテ実行シ得ルモノト解ス依ツテ今回ノ協定及關係債權國カ國際決済銀行ニ与フル指図案カ右様ノ解釈ヲ許ス wording ナルニ於テハ新協定ニ無条件参加差支ナシ尤モ議定書原文着電ノ上或ハ以上ノ見解ヲ改ムルノ止ムナキニ至ルコトアルヤモ計リ難キモ不取敢電報ス

(四)仏白ニ対スル本邦ノ支払(貴電第二八〇号ノ八)ニ付テハ支払猶予ノ適用ヲ希望ス形式ハ貴見ノ通り文書ノ交換ニテ差支ナシ

仏へ転電シ独、伊、白、米ニ暗送アリタシ

372 昭和6年8月10日 幣原外務大臣より  
在英國松平大使宛(電報)

無条件年金に関する共同宣言案への我が方対処方につき訓令

本 省 8月10日後発

第一七一号(至急)

栗山参事官へ

(一)在仏大使来電第二一一号ニ関シ無条件年金ニ関シテハ我方ハ英、伊等ト其ノ立場ヲ異ニシ居ルヲ以テ本宣言ニ参加スル必要ナキ様認メラルモ我方ノミ参加セサルモ面白カラサルニ付英、伊、白トモ署名スル場合ニハ我方モ之ニ参加スルコトト致度シ

(二)往電第一六七号(三)末段ニ関シ議定書原文ニ依ルモ同電(三)ノ見解ヲ改ムル必要ナキニ付之ニ賛成セラレ差支ナシ

仏、独、伊、白及米へ暗送アリタシ

373 昭和6年8月11日 在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

我が方要望を容れた批准条項案の承認等について

ロンドン 8月11日前発  
本 省 8月11日後発

第二九八号(至急)

栗山ヨリ

委員會ハ報告案並ニ議定書案中独逸側ノ為シタル留保其他

字句ノ修正等ヲ審議シ居ル処往電第二七六号批准条項案ハ本官ヨリ関係国委員ニ帝國政府ニ於テ海牙諸協定ヲ近々批准スヘシトノ内報ヲナシ置キタル為其儘委員會ヲ通過シタリ又貴電第一六七号(三)ノ見解ニ付テハ英國側モ同様ノ見解ヲ持シ國際決済銀行ノ記帳方法(在仏大使宛大臣宛電報第二一五号)ハ同行内部ノ事務ニ属シ關係國政府ハ自國ノ適当ト認ムル方法ニ依リ処理シ差支ナキ義ナリトノ意見ヲ述ヘ居タリ又在仏大使宛大臣宛電報第二一五号共同宣言案ニ付キテモ其ノ後段ニ貴電第一六七号(三)ノ見解ヲ裏書スル文句アリ旁々英仏伊白トモ署名スル由ナルニ付我方モ之ニ参加スル事トスヘシ

十一日独逸及「チエツコスロヴァキア」關係議定書署名ノ手筈ナルモ九日ノ委員會ニ於テ英國委員ヨリ別電第二九九号対洪牙利議定書案ヲ提議シタル処洪牙利ハ「ブルガリア」カ土地基金ニ払込マルヘキ同國ノ支払(乙種基金)ヲ継続スルコトヲ条件トシテ之ヲ承諾スル意向ヲ有スル由ナルモ「ブルガリア」ハ「カフアンダリス・モロフ」協約ニ基ク支払ニ関シ希臘ト協定ニ達セサル限り之ニ同意シ難キ趣ナルヲ以テ本件ハ今回解決スルコト困難ニシテ結局「ア」希臘

## 第三〇一号

十一日午後外務省ニ於テ本使ハ(一)独逸ニ関スル議定書及同議定書ニ関シ國際決済銀行ニ対スル共同通告文(二)「チエツコスロヴァキア」ニ関スル議定書及同議定書ニ関シ國際決済銀行ニ対スル共同通告文ニ署名セリ

前記(一)ノ署名國ハ独、英、加奈陀、豪州、「ニュージーランド」、南阿連邦、印度、仏、希臘、伊、日、波蘭、「ポルトガル」、羅馬尼、「チエツコスロヴァキア」ニシテ「ユーゴースラビア」ハ署名セス又希臘ハ東方賠償問題及「カフアンダリスモロフ」協定ノ解決ヲ留保シ署名セリ  
前記(二)ノ署名國ハ白、英、加奈陀、豪州、「ニュージーランド」、南阿連邦、印度、仏、希臘、伊、日、「ポルトガル」、「チエツコスロヴァキア」トス  
米、仏、独、白、伊、希、チエツコ、羅馬尼、西、瑞典、澳、波蘭ヘ転電セリ

## 375

昭和6年8月11日

在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

## 報告書への署名について

臘繋争問題ハ之ヲ國際連盟ニ付議セシメ九月總會ノ際府ニ於テ本議定書ニ署名スルコト適當ト認メラルルモ此ノ際当地ニ於テ右議定書案ニ各國委員ノ「イニシアル」ヲ付スルコトトシ度シト述ヘ各國委員モ之ニ同意シタリ本件ハ御訓令ノ趣旨ニ反セサルモノト認メラルルヲ以テ我方モ之ニ「イニシアル」ヲ付シ差支無シト思考セラルルモ至急右ニ対シ御回訓相成タシ

尚右議定書ノ第一条ニ日、英、仏、伊、白、葡ノ取分ヲ依然洪牙利ヲシテ支払ハシムヘシトアルハ右取分ハ「オプタンウルワ」ノ土地基金払込マレ(乙種基金)結局洪牙利ニ於テ利得スルモノナルヲ以テ之カ支払ヲ継続セシムル趣旨ナリ  
米、仏、独、伊、白ヘ暗送セリ

## 374

昭和6年8月11日

在英國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

## 議定書および関係文書への署名について

ロンドン 8月11日後発  
本 省 8月12日前着

## 別電

昭和六年八月一日付在英國松平大使より幣

原外務大臣宛第三〇四号

報告書案の修正箇所について

ロンドン 8月11日後発  
本 省 8月12日後着

## 第三〇二号

往電第二九八号ニ関シ

栗山ヨリ

専門委員會報告ハ十一日正式ニ委員會ニ於テ採択セラレ各國首席委員之ニ署名セリ右報告中原案ニ対スル修正其他変更中重要ナル点ハ別電第三〇三号及第三〇四号ニ依リ御承知アリタシ

対独議定書署名前本官ハ仏白全權委員ヨリ「ドウズ」案最後取扱剩余中我方ノ仏白ニ対スル支払ヲ明年七月一日迄延期スルコトニ同意ナル旨ノ文書ヲ取付ケ置キタリ往電第二九八号洪牙利ニ関スル議定書案ニ「イニシアル」ヲ付スル件ニ付テハ御回訓間ニ合ハサリシモ本委員會ニ対スル政府御訓令モ大勢ニ順応シテ差支ヘナキモノト認メ「アドレフレンダム」ニテ本官ニ於テ「イニシアル」ヲ付シ置キタリ

在仏国大使宛貴大臣宛電報第二一一号英、伊、白、日ノ共同宣言モ他ノ三国何レモ署名シタルヲ以テ本官モ之ニ署名セリ

各報告及議定書ハ何レモ署名後直ニ発表セラレタリ尚本委員会ハ別ニ議事録ナシ議定書ノ趣旨ハ大体報告書ニ依リ明カナルモ為念本官ヨリ別ニ議定書ノ逐条的説明書ヲ成ルヘク早日ニ提出スヘシ議定書及報告書トモ至急郵送ス（転電本電ノミ）

米、仏、伊、白、独、墺、羅馬尼、波蘭、希、西、智恵古ヘ転電セリ

### （別電）

ロンドン 8月11日後発

本省 8月12日後着

### 第三〇四号

往電第二八二号専門委員会報告要領中修正セラレタル主ナル点左ノ通

(一)第二独逸賠償及連合国戦債中

(イ)ノ末尾ニ「独逸委員ハ本協定ヲ承諾スルニ当リ本委員会ノ権限内ニアラサル独逸ノ将来ノ支払能力ニ付テハ何

等意見ヲ表示スルモノニアラサル」旨ヲ付加ス

同(二)条件付年金償還年額ハ一一七、八三一、〇〇〇馬克ニ修正セラル

同(三)全部ヲ削除シ左記ヲ挿入ス

独、白、馬克協定ニ基ク支払問題ニ付テハ之カ継続ニ付白独間ニ妥協成立セリ右ニ関スル白独間ノ交換公文書ハ本報告書ノ付属書トシテ挿入セラル

同末段支払猶予ノ適用ヲ受クル債務一覽表ハ報告書ニハ添付セス各債権債務国間ノ取極ニ委ヌルコトセリ

尚議定書案及国際決済銀行ニ対スル共同通告文案ハ夫々報告書付属第一及第二トセリ

(二)第三独逸以外ノ支払中

(イ)ニ左ノ修正ヲ加フ

洪牙利政府ハ右土地基金ニ利用セラルル限度ニ於テ同国ノ賠償支払ヲ継続スル旨ヲ通告シ来レリ

「ブルガリア」政府ニ対シ土地基金ニ割当テラレタル同国支払継続方ヲ要求セルモ未タ回答ニ接セス

米、仏、独、白、伊ヘ暗送セリ

## 五 麻薬・阿片関係国際会議

### 1 阿片事情調査委員会の極東への派遣問題

376

昭和3年7月31日 田中外務大臣より  
在パリ佐藤連盟事務局長宛（電報）

極東への阿片事情調査委員会派遣に関する英

国提案に我が方原則同意について

付記一 昭和三年七月二一日付在本邦ドーマー英国代

理大使より田中外務大臣宛

極東への阿片事情調査委員会派遣に関する英  
国覚書

二 昭和三年三月一六日付英国殖民省の極東阿片  
管理に関する覚書

三 昭和三年七月三〇日付田中外務大臣より在本  
邦ドーマー英国代理大使宛条三普通第一一〇  
号

極東への阿片事情調査委員会派遣提案に対す  
る我が方回答

本省 7月31日後発

第一〇〇号

在本邦英国代理大使ヨリ本国政府ノ訓令トシテ支那ニ於ケル罂粟栽培最近盛ナル為阿片不正取引頻繁ニシテ「マレー」殖民地香港等ニ於ケル阿片政策実施ニツキ大ニ困惑シ居レル此際連盟ヨリ極東ニ委員ヲ派遣シ阿片協定ニ依ル来年ノ会議ノ準備記録ヲ作り且ツ現状救済方法ヲモ建言セシムル様右九月ノ理事会ニ提議シ度キ処日本政府ニ於テ之ニ賛成シ極東ニ於ケル其領地ノ全部若クハ一部ニ右委員ヲ招請スル意向アリヤ否ヤ承知シタキ旨且ツ同文通牒ヲ和蘭、仏、葡及「シヤム」国政府ニ送達セル趣来翰アリタルニ付

一、本件九月ノ理事会ニ提議方同意

二、委員ノ審査ハ阿片協定実施地域及支那ニ及ホス必要アルニ付支那政府ノ同意ヲ必要トスルコト

三、我方ノ協定実施地域ヲ委員ノ視察スルコトニ異議ナキ